



美

ひじり美術館

原案/村井昌世 作/ソノヒカギリ美術館製作委員会 構成・演出/大潤弘幸
美術/ナカムラジツ 身体表現/若林こうじ 音楽/青柳拓次 制作/浅野井優子 制作助手/森恭次郎



劇団風の子の活動

劇団風の子は、まだ戦後の焼野原が残る東京世田谷で、子ども会や子ども文庫の活動をしていた多田徹を中心とする若者たちによって、1950年に始められました。

「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考えること」を劇団の理念とし、以来、約70年、「子どものいるとどここへでも」を合言葉に、北海道から沖縄まで、全国で公演を続けています。

また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も積極的に行なっており、国際的な文化交流の輪も年々ひろがってきています。

劇団風の子は、これからも子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、視野を世界に広げ、子どもの育つ地域に目を向け、先生方や子どもをとりまくおとなたちと連携し、子どもたちの心の中にとびこんでいきたいと思っています。

主な受賞作品

- 「小さい劇場」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「世界をまわるトランク劇場」児童福祉文化賞
- 「宝のつるはし」都児童演劇祭優秀賞・児童福祉文化奨励賞
- 「チワンの星」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「突然の陽ざし」都優秀児童演劇選定優秀賞・文化庁優秀舞台芸術奨励公演
- 「風の子パザール」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「カレドニア号出帆す」都優秀児童演劇選定優秀賞・NHK脚本賞
- 「うそんこほんこ」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「お祭りどんぶり」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「ぼくたちの南十字星」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「ガヤガヤとムツツリのたんじょうび」中央児童福祉審議会特別推薦
- 「おれがあいつであいつがおれで」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「おはなしちんどん」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦
- 「マンナム」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦

ソノヒカギリ美術館

ソノヒカギリ美術館に入ってきたしゅん間に、いきなりお絵かきをしました。(4年)

ソノヒカギリ美術館のソノキニ・ナールさんとソノバ・シノギさんが来てくれました。(6年)

みんなでお絵かきして、お絵かきしたものを展示しました。(1年)

あらすじ

ソノキニ・ナールさんとソノバ・シノギさんはソノヒカギリ美術館の学芸員です。毎日あちらこちらで一日限りの美術館を開催しているのですが、今日はこの小学校の体育館でソノヒカギリ美術館を開くことになりました。校長先生から依頼のお電話をいただいたのです。

児童の皆さんがやってきました。あら大変、まだ準備中なのに！あわてて大きな箱を開いたり包みを解いたりする二人。そこに一人の子どもが迷い込んできました。名前はアキ。

アキは箱の上に乗ったり、包んであった大きな紙をガサガサしたり投げたりして遊び始め、ナールとシノギはちっとも仕事はかどりません。展示された立派な美術作品さえもアキにとっては格好の遊び相手。ナールとシノギは何とか準備を進めようと思いますが、ついアキのペースに乗せられて二人も遊び始めてしまいます。

遊んでいるうちにシノギが額縁の中に閉じ込められて絵になってしまいました。アキとナールはどうしたらシノギを助け出すことができるでしょうか。ソノヒカギリ美術館は無事オープンできるのでしょうか！？

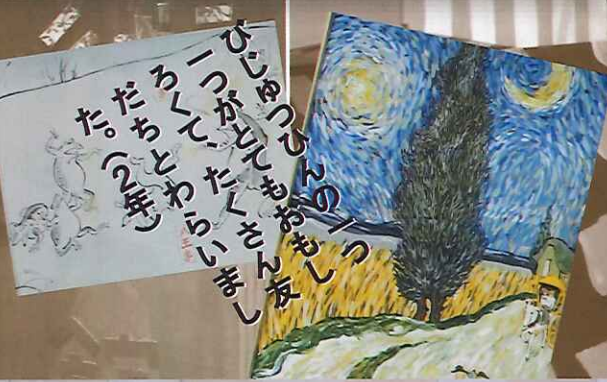
はじめての美術館

自分の記憶の中にある最初の美術と言われるものは何か問われたら、私はアントニオ・ガウディの建築と答えると思います。石なのにもすごく柔らかなものに感じ、大昔からやってきたのか、遠い未来からやってきたのか。映像ですがひとめで心をわしづかみにされました。いつの日かじかにこの目で見てみたい、それは今も持ち続けている夢です。美術や音楽、演劇には人をとりにする力があると信じています。

ソノヒカギリ美術館は美術展示だけではなく、子どもたちの創作の時間もあります。音楽を奏でる時間もあります。物語を感じる時間もあります。それらをすべてあわせると演劇になります。

この劇を観た子どもたちが自分で思ったこと、感じたことを表現したいと思ってもらえたら、とてもうれしいことです。

構成演出 大潤弘幸



舞台とアートのコラボレーション

「遊び」と「芸術」は子どもが豊かに育つために必要不可欠のものです。ソノヒカギリ美術館はこの二つの言葉をキーワードに舞台とアートがコラボレーションした体験型演劇です。

美術館は静かに絵や彫刻を鑑賞する場所というイメージを持つ人が多いと思いますが、ソノヒカギリ美術館は子どもたちの声飛び交いと賑やかです。絵に思い思いの題名を付けたり、ピクトグラム(非常口等に使用されている絵文字)をモチーフにした作品と一緒に作ったり、額縁を使った表現遊びなど、子どもたちの自由な想像力と創造力を引き出し、一人ひとりの発想を大事にし、違いを感じ認め合うことができる美術館なのです。

子どもたちが展示された美術作品と劇空間を楽しみ、そして自ら表現することも楽しみながら、お互いの存在そのものが唯一無二のアートであることを、理屈ではなく体感し共有することを願っています。

制作 浅野井優子

ソノヒカギリ美術館 OPEN!!

